黒龍江省綏芬河市・東寧県――ロシア国境・対日関係の進展に向けて

●富山県大連事務所　所長　倉嶋　清吾

●綏芬河市・東寧県の概要

〈綏芬河市〉面積460㎢、人口15万人。ウラジオストクまで210㎞、ロシアと100年余りの交流がある。1992年に中央政府より辺境開放都市に指定。ロシア側と鉄道・道路による輸送が行われ、対外貿易は36億ドル、国際旅行客は59万人。ロシアからの輸入貨物1,000万ｔのうち80％以上が木材で、市内には400社余りの木材加工企業がある。ロシアとの国境を跨いだ観光・居住・自由貿易地区「綏芬河貿易総合体」を建設。

〈東寧県〉面積7,140㎢、人口21万人。ウラジオストクまで153㎞、市内の国際バスターミナルからは30分毎にウラジオストク行き長距離バスが発車。旅客用の税関・自由貿易地区があり、国際旅行客は30万人。木材産業等の他、中国有数のキクラゲ・マツタケの産地であり、石炭等の鉱産資源が豊富。

●木材関連企業の状況、日本との関係

ロシアからの原木の輸出関税率の上昇（７月から25％、2008年には80％）により、コスト上昇が見込まれている。このため、各企業は近年、ロシア側に法人・工場を設立して粗加工をし、中国に輸入して精密加工することで対応している。

日系企業の進出はまだなく、日本側とは貿易・合作形式による加工・輸出が多い。東寧県の企業（日本向け建材加工・輸出）には、栃木県企業との技術協力による日本からの常駐者がいる。日系企業は総じて品質要求が高く、販売価格も高めになっているが、ロシアの輸出関税率の上昇が中国企業との取引に影響を与えているケースもある。

●日本との協力方法の提案

〈綏芬河市〉

・「入海聯運」（黒龍江省→ウラジオストク→日本）による物流ルートの拡大。このルートにより黒龍江省・日本間が1,000㎞短縮される。現在、石炭等を年間70～80万ｔ日本に輸出しているが、今後、農産物輸出等での拡大を希望。

・対外貿易、木材の精密加工、輸出加工での合作。輸入木材は粗加工が多く、精密加工での日本側企業との合作を希望。機電加工園地を建設中であり、ロシア向け機電製品の生産企業の入居を希望。

・観光交流。綏芬河－ウラジオストク－日本、または逆ルートでの交流を提案。

〈東寧県〉

・ロシア国境沿いに浙江省企業の投資による「東寧口岸対ロシア貿易浙江工貿園区」を建設、標準工場、住宅等も設置。対ロシア製品の加工・組立・包装・中継等の企業を誘致。現在、日本の木材会社が興味を示している。

●課題と展望

「入海聯運」ルートによるロシア経由での日本へ輸出については、ロシアの港湾施設の能力の問題がある。中国が港湾施設改善への協力を申し出ても同意せず実現していない。また、日本－ロシア－黒龍江省の人の流れは、ロシア側のビザ発給の問題（所定期間内にビザを発給せず、急ぐ場合は高額の発給手数料を要求される等）が存在する。これらのロシア側の原因やロシアの政策の不安定要因がネックになってはいるが、今後、ロシア国境の利点を活かした対日交流の進展の可能性は大きいといえよう。